

講義名：監査論[2] <秋> 担当教員名：朴 大栄		ナンバリングコード：0 [Redacted]	
研究室：聖アンデレ館9階905号室		オフィシアワー：木曜3限	
		メールアドレス： park@andrew.ac.jp	
授業形態			
『講義』			
講義・演習概要			
2008年9月のいわゆるリーマンショック後の経済停滞は世界的な経済活動の後退を生じさせ、日本においてもこれまで以上の企業倒産を引き起こしてきている。過去においても、長期の不況が多くの企業倒産を誘発してきた。倒産企業においては、経営者による不正や財務諸表の粉飾が判明することもある。最近では、倒産には至っていないものの、東芝やオリンパスの損失隠し事件に関連して会計・監査の信頼性が問題となっている。このような状況のもと、監査の中身に対する社会的関心も高まり、監査基準や公認会計士法などの大幅な改訂も実施された。監査論は、企業の独断専行を抑え、一般社会との協調を計らせるための会計学、経営学等の応用理論に属する。今年度の講義は、このような社会背景のもと、監査の基礎知識のみならず、現行の情報公開制度ならびに監査制度の問題点などにも触れていくことにする。 本講義を受講する前に「ディスクロージャー制度論」を受講しておくことが望ましい。			
学習目標			
本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に介在する金融商品取引法監査ないし会計監査を中心に、監査ならびに企業情報の公開に関する基礎知識の理解を目標とする。具体的には以下の学習目標をあげることができよう。 1. 経済事件の背景を理解する。 2. 企業の情報公開の内容・種類について理解する。 3. 会社法、金融商品取引法、公認会計士法等、監査を取り巻く法律を理解する。 4. 監査の必要性、監査の基礎理論を理解する。			
講義・演習計画			
【第1回】 監査とは: 監査論の導入部分として、監査の概略を説明します。ビデオなども活用します。			
【第2回】 監査の歴史1			
【第3回】 監査の歴史2			
【第4回】 監査を取り巻く法律1			
【第5回】 監査を取り巻く法律2			
【第6回】 監査を取り巻く法律3			
【第7回】 監査を担当する人1			
【第8回】 監査を担当する人2			
【第9回】 監査を取り巻く組織1			
【第10回】 監査を取り巻く組織2			
【第11回】 監査のルール			
【第12回】 監査のプロセス			
【第13回】 監査結果の報告1			
【第14回】 監査結果の報告2			
【第15回】 健全な社会と新たな課題			
成績評価の方法			
試験	60%	レポート	20%
出席			20%
コメント	講義中の態度も含めて、総合的に評価します。		
テキスト			
著書	盛田良久、百合野正博、朴大栄編	タイトル	『まなびの入門監査論』、新版第2版
ISBN	978-4-502-45180-5	出版社	中央経済社
教科書購入区分	生協購入	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献			
講義中に適宜指示する。			
事前および事後学習の指示（事前学習 30 時間 ・事後学習 30 時間）			
監査論の基礎として、企業情報の開示制度を勉強しておく必要がある。 受講生は日本経済新聞の経済欄および証券欄を読んでおくこと。企業の情報公開、証券取引所における株価変動、株主総会等の記事に特に注意しておくこと。 また、各自が就職希望など関心のある企業、業種について、企業情報を新聞やホームページで見ておくこと。			
その他備考(担当教員用)			
キーワード			
備考(管理者用)			
(旧:監査論)02～13B生読替			